

|                                                                                                                                     |                                                                                                                                   |                                   |                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------|
| 会議（打合せ）報告書                                                                                                                          |                                                                                                                                   |                                   |                         |
| 会議(打合せ)の<br>名称又は議題                                                                                                                  |                                                                                                                                   | 平成３１年度 第２回 白井市産業振興ネットワーク会議<br>会議録 |                         |
| 日時                                                                                                                                  | 令和元年１０月２８日（月）<br>午後２時～４時                                                                                                          | 場所                                | 白井市役所 本庁舎２階<br>災害対策室１・２ |
| 出席者                                                                                                                                 | 鈴木委員長、野水副委員長、山口委員、海老原委員、福田委員、中溝委員、<br>宮地委員、黒木委員、瀬口委員、米田委員（欠席委員５名）<br>事務局：川上市民環境経済部長、川村産業振興課長、山口主査、松本主査補、<br>綿崎主任主事、高仲主事<br>傍聴者 ０名 |                                   |                         |
| <p>（会議開催の趣旨）</p> <p>白井市産業振興条例第８条第２項に基づき、産業振興に関する施策を調査審議<br/>するため、平成３１年度第２回の白井市産業振興ネットワーク会議を開催した。</p> <p>（内容）</p> <p>次ページ以降のとおり。</p> |                                                                                                                                   |                                   |                         |

○事務局 それでは、皆様お待たせいたしました。本日は、委員の皆様におかれましては、大変ご多忙のところご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

会議に先立ちまして、本日のスケジュールをお知らせいたしますが、お手元の会議次第のとおり進めてまいります。会議の終了は、おおむね3時半から4時ごろを目安とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日は、小川委員、板橋委員、押田委員、石毛委員、染谷委員につきましては、所用のため欠席との事前連絡を受けており、本日の会議は、委員の方10人の皆様が出席されていることをご報告させていただきます。

また、資料は、本日配付しました第5次総合計画、習志野市産業振興計画、A3の白井市産業振興計画の整理（案）のほかは、あらかじめ郵送させていただいております。

なお、今回の資料送付時に、第1回の会議の資料も必要ですのでお持ちくださいと記載させていただきましたが、あわせて皆様お持ちいただけましたでしょうか。第1回の資料は、係の者から、必要な方は、資料を説明させていただいている間に、もしなければ、その都度事務局におっしゃっていただければと思います。

次に、会議前に皆様へのお願いとして、今回も録音データで会議録を作成する関係で、音声で判別のつきにくい発言者のお名前がわかるように、意見を述べる際には手を挙げて、委員長に指名してもらってからご発言いただきますよう、本日もお願いいたします。

なお、本日の会議は、白井市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、公開の会議となりますことをご了承願います。

それでは、定刻となりましたので、ただいまより平成31年度白井市産業振興ネットワーク第2回会議を開催いたします。

まず、鈴木委員長にご挨拶をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○鈴木委員長 皆さんこんにちは。委員長の鈴木でございます。皆様お忙しいところお集まりいただき、大変ありがとうございます。

また、事務局におかれましては、災害対応で忙しい中、資料づくりに尽力いただきましてありがとうございます。

きょうの会議ですけれども、前回話題になりました産業振興計画について、メインの議論ということになりますので、どうぞ皆様、今回もご忌憚のない意見をいただければと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。

それでは、ここからの議事進行は委員長に委ねたいと思います。鈴木委員長、よろしくお願いいたします。

○鈴木委員長 それでは早速、議題を進めていきたいと思います。今回の会議の議題は大きく四つありまして、第5次総合計画について、二つ目が産業振興計画（仮称）策定について、プレミアム付商品券事業について、その他となっております。

先ほども申しましたけれども、きょうの中心となる議題は、産業振興計画（仮称）策定についてでございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員 済みません、前回、次回の内容について、しろい梨ブランディングとか言っていたのはどうなっちゃったのですか。しろい梨ブランディングについてというのを第2回目にやりましようとなっていた気がするのですけれども。

○事務局 それは、会議が始まったら説明しようかと思っていたのですけれども、前回その案を出させていただいていたのですけれども、今回、優先的にご報告しなければならない事業、議題3のプレミアム付商品券事業ということがございましたので、そちらのほうは次回、ペンディングいただいて、今回はこちらのほうを先にご報告させていただければということで、スケジュールどおりでなくて申しわけないのですが、この後で説明する予定でしたけれども、ご理解のほどお願いしたいと思います。

○鈴木委員長 それでは、議題1に入ってまいります。第5次総合計画について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 よろしく申し上げます。前回、第5次総合計画についてということで説明したところですが、名前がちょっとわかりにくいとか、個別の事業計画がどのような効果があるのだろうかとか、中身が見えにくいというご意見がありましたので、今回、急遽、企画政策課のほうから総合計画の冊子を提供いただくことができましたので、皆さんにきょう配付させていただいて、より理解を深めて産業振興計画の策定に向かっていければと思い、議題とさせていただきました。

それでは、お手元に冊子をお配りしてありますので、そちらをごらんいただきたいと思います。

ページをめくっていただいて、4ページですけれども、市の総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画、この三つの大きな柱からなっていますということを前回お話しさせていただきました。

基本構想は、まず平成28年から令和7年までの10年間ということになっていまして、次に基本計画というものが、平成28年から令和2年の5年間、それと今後策定していけます後期基本計画ということになってまいります。これを前期基本計画、後期基本計画にひもづくものとして、個別に市のほうでは実施計画というものが定められていまして、これについても、前期5年間、後期5年間というもので、あわせて進んでいくようになります。

次に、15ページ、16ページをお開きください。

まず16ページですけれども、基本構想の基本理念、市では安心、健康、快適というものをキーワードに挙げています。

次のページをめくっていただいて、18ページに将来像というものがあります。これは、ときめきとみどりあふれる快活都市ということでスローガンを掲げていまして、こうし

たことを市民が目指していける事業計画ということになっております。個々にはいろいろと細分化されていくのですけれども、それはこの後の28ページをお願いします。

前期基本計画の概要とあるのですけれども、位置づけだったり、構成だったり、期間であったり定められていまして、この中身が何になるかと申しますと、もう1枚ページ、30ページを見ていただきまして、前回もお話ししましたけれども、基本計画の戦略1、若い世代定住プロジェクトと戦略2、みどり活用プロジェクト、戦略3、拠点創造プロジェクトという三つの重点戦略から成り立ちますということで説明させていただきました。

これらには、戦略の柱というものがあまして、例えば戦略1ですと、ゆとりある暮らしを支えるまちづくりであったり、働く場をふやすまちづくりであったりとか、戦略2では、魅せる農のまちづくり、緑が価値を生み出すまちづくりなど、戦略3も都市拠点がにぎわうまちづくり、地域拠点がにぎわうまちづくりなど、柱となることが定められていまして、これらにひもづくものとして、実現化、具現化するために取り組み事項が記載されてございます。

それが右側の31ページに横断的になっていまして、例えばここでいう産業振興計画に関係する部門では、戦略1の2、働く場を生み出すまちづくり。これについては、工業団地などにおける市民の雇用拡大、異業種・異分野間のネットワークづくりによる交流・連携の支援、未利用地や幹線道路沿道等における開発誘導と起業希望者における支援のしくみづくりや、起業を意識した学習機会の提供などが取り組みの柱になっています。

同じように、戦略2でも、産業振興部門にかかわるものとしては、魅せる農のまちづくりというところで、多様な形態の農業経営と担い手の支援とか、農商工の連携による農産物の高付加価値化やブランド化などがあります。

次に、戦略3ですけれども、産業振興計画、今後策定していくのにかかわるところとしては、3の1、都市拠点がにぎわうまちづくりということで、市役所、白井駅周辺や西白井駅周辺などの地域特性に合わせたにぎわいづくりとか、工業団地への産業機能の集積に向けた環境整備などが関係してまいります。

ただ、この部分に関しては、直接産業振興というよりは道路部門であったり、環境部門であったり、都市計画部門であったり、他課が中心となる事業が中心ですけれども、産業振興にかかわるものとしては、間接的にこちら二つがかかわってきますということになってきます。

それでは次に、55ページを見ていただきまして、総合計画における分野別個別計画ですけれども、このような形になっております。産業振興部門としては、分野としては産業、雇用ということで、個々に農業振興地域整備計画とか、ここではまだありませんけれども、創業支援事業計画といった別に計画は持っているのですけれども、こうしたものを大もとにまとめた白井市産業振興計画というものがまだ策定していませんでしたの

で、ここで今回策定していくものとなります。

では、冊子のほうの説明は以上になりまして、前回、市のほうの事業がわかりにくいというところがありましたので、そこを整理したものとして、郵送しました別添1の資料を見ていただければと思います。

基本計画というものが、ざっくりしたもので細かいことは入っていないので、産業振興のほうでどんなことをやっているかというのは、どういうところにひもづくかというところで整理をしてみたものが、この別添1になります。

例えば、先ほど戦略1、2、3の柱から成り立っていますというところで、戦略1について、若い世代定住プロジェクトでは、産業振興に関係するものとしては、雇用・労働支援事業であったり、工業団地PR事業、異業種異分野交流・連携事業、創業支援事業などがあります。こうしたことを実践していくことで、若い世代移住定住促進や地域雇用拡大、商工業の活性化、にぎわい創出などに位置づけているものとなります。

ちなみに、星印がついているものは何かといいますと、先ほどの前期基本計画の中の下に実施計画があるとお話ししました。この実施計画で、個別に実施計画が定められているのは、この星印のマークになっている事業になります。

次に、戦略2では、みどり活用プロジェクトということで、これが主に農政関連になってまいりますけれども、例えば集落営農の組織化等支援事業、育苗センター事業、援農ボランティア育成・就農支援事業などがあります。こうした個々の事業を実践していく上で、農地の保全、ブランド力の強化、農業の活性化、販売先の拡大、生きがづくりなどに効果を狙うものとしております。

次に、戦略3では、拠点創造プロジェクトでは、直接産業振興にかかわるものとしては少ないのですが、企業誘致推進事業というところで、企業立地奨励金制度であったり、昨年策定しました商業施設等立地奨励金制度により、市内の企業の誘致を促進させる制度がつながってまいります。企業立地を推進することにより、どのような効果を得るのかと申しますと、地域雇用の拡大、利便性の向上、地域の活性化であったり税収の確保など、効果として見られるものとなります。

そのほか、産業振興による通常業務として、ふだん行っているものとしまして、右側の戦略外というところで、企業の商工業事業者の皆様をサポートしていく中小企業活性化事業。融資制度だったり、商店会に補助金を出したりという事業になってまいります。

あとは、商工会活動支援事業、工業団地活性化支援事業で個別支援をすることにより、各経済団体を支援していくものになっております。

あと、観光事業・情報提供、ふるさと産品推進事業ですけれども、最近多い業務になっているのがこちらのほうで、例えば千葉県の方で、冬には上野駅などで産直市というイベントを催したりとか、東京駅アンテナショップに千葉県の方で12月に出店しまして、そちらに市も出店して、事業者の皆様と参加してPRしているところでもあります。

あと、消費生活事業であったり、中小企業の設備投資支援であったり、こうしたことを通常業務として取り組んでいます。

また、農政部門では、担い手等育成事業、環境にやさしい農業支援事業、農業農村交流事業といったことをふだん実施して、農業支援などを行っているところです。

こうした取り組みを実践することで、最終的には地域雇用の拡大、税収の確保だったり、大局的に地域経済の活性化、産業振興を狙うものとなってまいります。

以上、説明は以上となります。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

ただいま第5次総合計画について説明がありました。前回の説明を受けて、事業体系的にまとめられたということでございました。今の説明をお伺いしまして、皆様ご意見とかご質問がありましたら、挙手をお願いしたいと思います。

○委員 これまとめていただいた資料なのですが、どういうふうに見ればいいのかよくわからないのですが、例えばこの戦略1の若い世代定住プロジェクトというのが書いてあって、その下に戦略的取り組みと書いてあるのですが、この取り組みの目的としては、単身世帯とか子育て世帯、若い世代の定住を促進するというのがあって、それに対して、方法として、取り組みとして、上に四つ、快適な生活空間の創出とか子育てを安心して楽しめる環境づくりとか四つあるのですが、これらに手段とかそういうのが、戦略にはどれがどれにマッチングしているのかがわからないのです。例えばここにこういった取り組みをするんだ、それに対してこういった産業振興課としてやっている取り組みが、これについてこういうものがあるんだというのがわからないのと、当然そこもわからないので、一番下のどれがどの地域雇用拡大とか、にぎわい創出というのに向けて行われている事業なのかがわからなくて。

また、この効果とか狙いと書いてあるのですが、効果が出たとか、うまくいった、いかないというのがどうやって測定するのかがわからなくて。測定しないと、うまくいったかどうかかわからないと思うので、測定できるメジャメントを立てないと、見ても何がなんだかよくわからないのですけれども。

○事務局 ありがとうございます。今の質問なのですが、実は本当は詳しく説明していきたいところなのですが、それを説明していくと、一項目だけで1回の会議が必要なぐらいに細かいことになっていくので、このような抜粋した形でしか提供できなくて申しわけなかったのですが。

例えば、あくまでも基本計画というのは、方針とか方向性を定めたものになっていて、ざっくりしたものです。個々に事務事業を行っているのは各事業課になってまいりまして、そういったところで行っているのが、例えば雇用・労働支援事業だったり、工業団地PR事業であったりしています。

今、委員がおっしゃられたとおり、快適な生活空間の創出、子育て安心とか楽しめる

環境づくりと書かれてはいるのですけれども、これについては、ざっくりした方向性ということが基本計画では述べられているだけで、例えば子育ての安心云々とかになると、福祉部門のほうになってきたり、子育て世代もそっちのほうになってきたり、産業振興のほうでかかわる事業ということでピックアップさせていただいたものが、この重点戦略外の資料になってきます。

さらに、例えば雇用・労働支援事業でどのようなことをやっているかという話になってきてしまうのですけれども、例えば無料職業紹介所の運営。これは2人の職員を採用していて、ハローワークの地域版のようなことをやっています。求職者が求人票を見つけやすくサポートしたり、向いた仕事がどういうことであるとか、こうしたことをサポートして、企業にこの会社を例えば受けてみたいということであれば、無料職業紹介所の相談員さんが企業に直接連絡して、橋渡しをして、行ってもらって面接をしてもらうなりということにより、雇用の拡大につながるものとなっていくものになります。

あとは就職フェアの実施であったり、合同セミナーの開催についても、こういったことを開催することにより、少しでも雇用の拡大の一助になっていくような取り組みとなっています。

これは今、一例に過ぎなくて、こうしたことを主にこういったものはこうしたことに結びつく、こうしたことに結びつくということとご説明していきたいところではあるのですけれども、申しわけないのですが、時間がありませんので、そうしたことでひもづいているということでご理解いただければと思います。以上、説明となりますがよろしいでしょうか。

○委員 その個々のことを聞きたいということは全くなくて、前回もお話ししたように、例えば一番上にある戦略的な取り組みと書かれているやつなのですけれども、この中で、産業振興課のほうで対応していないものがあれば、それはそれでいいのですけれども、この中のどの取り組みについて、重点戦略として、うちではこういうことをやっているのですというのがわかるような資料が欲しかったのです。そうじゃないと、振興課は振興課でやるべきものが幾つあって、それに対して、もれなくどんなことが行われているのかがわからないから、前回そういったのを表でまとめてもらえるような資料を見たいと。

その詳細は要らないのです。詳細は知りたければ、書いてあるものを読むとか、伺いに行けばいいわけで、まずざっとしてわかるものを1枚でお願いしたいと言っていたのは、そういったここでやらなければいけない取り組みがどれだけあって、それに対してどういう施策が行われていて、それが全く行われていない部分があったりとか、逆にここだけいっぱいあったりとか、そういうのがわかるような、上段と中断がそういった形でひもづくような資料が欲しくて。

それに対して、効果というのは、それぞれの戦略によってどういうことを目指してい

るのだというのが、当然、これを全部目指しているわけじゃないと思うのです。1個の取り組みが、下にある取り組み五つとかあるのを全て実現するのか、そうじゃないと思うのですけれども、それがどれにひもづいていて、それが結果的にどうなれば、その施策というのはいくのか、いったのか、いかないのかというのを判断できるのか。目的はざっくりしていてわからないのですけれども、にぎわいの創出して何を言っているのだらうと思って。だから、それは産業という観点から見たら、どうなったらにぎわいが振興できたのだといえるのか、そういった具体的なところを言っていただくと、その施策がちゃんと、こういうやり方でいいんだとか、こういうやり方では外れているんじゃないのと思えるのですけれども、そういうのがさっぱりなくて、みんな具体的なものがなくて、しかも、こればらばらにまとめられているから、資料を見てもよくわからない。

○事務局 今のご指摘ですけれども、恐らく何を目的に、何を狙い、どうしたことを求めるのかというお話だったかと思うのですけれども、申しわけないのですけれども、そうしたことを次の今後つくる産業振興計画の中には、個々に事業計画的なものを詰め込んでいって、これについてはこれを求めている、この効果を求めているということを産業振興計画の中で細かいことはつくって、まだ白紙の状態で行きたいと思っておりますが。

では、今やっていることに対して、効果測定はないのという話だったのですけれども、資料には出していないのですけれども、市のほうでは事務事業評価ということを行っておりまして、その中で第三者委員会にかけたり、市の幹部の中で、それについての効果を検証する場合があります。それについて検証している事業というものが、別添1については星のついている事業、例えば労働支援事業であったり、工業団地PR事業であったり、異業種異分野交流・連携事業であったりというこの星のついた事業については、既の実施計画とそれに基づいた効果測定がされた資料があります。それは申しわけないのですけれども、また次の機会に示したいと思います。

ただ、それで全てかということもありますし、こういったことではないということもあろうかと思うので、参考までにはそれをお示ししつつ、今後、産業振興計画の中では、それがしっかり網羅できるように皆さんと一緒につくっていただければと思っております。以上です。

○委員 もう一回いいですか。

○鈴木委員長 同じことですか。

○委員 同じというか、おっしゃっていることがよくわからなくて。欲しいのは、効果とか狙いとうたっているところが、具体的にどういうことなのかというのがわからないのです。商工業の活性化というのは、何がどうなったら商工業が活性化したのだといえるかという話で。今、ご説明いただいたのは、重点戦略といわれるやつの個々のやつに

ついでの評価は行っていますよというのを伺ったのですけれども、そうではなくて、ゴールがよく見えないから。例えばにぎわい創出というのは何なのだろうというのがよくわからなくて、それがこういうことなのです、これがこうなったら、にぎわいは創出されたということなのですというゴールが見えないから、ゴールのところの測定可能な達成目標みたいなのを教えてほしいということです。

○鈴木委員長 事務局のほうは、ないとは言っていないのですけれども、恐らくまだ確定されたものではなくて、それを今後、次回以降からつくっていきたいというふうにおっしゃられたと思います。

○委員 ただ、今おっしゃっていたので、前期が行われていて既に出ているものがありますとおっしゃっていたので、少なくとも既に出ているものについては、こういうのを目標にやっていますという目的は書けると思うのです。それが無いものについては、逆に今わかっているものとわからないものがはっきりしているので、それはそれでいいと思うのですけれども。そういうふうに書いていただかないとわからなくて。もともとこれは取り組みについて施策というのが、どれが行われているのやら、過不足があるのかもさっぱりわからないので、そういうところが。このところを今回は検討したいのですというのが抜けていれば、そのところなのだというのがわかると思うのですけれども。

○事務局 委員がおっしゃられたとおりのことで、実施計画については、先ほどあるものもあるというお話をしましたけれども、確かにそれは全てではなくて、ないものも多々あります。

それについて、どういう効果を具体的に求めるのかというところでは、ないのですけれども、例えば今後つくっていきたいと思っているところでは、にぎわい創出であれば、駅前に何人ぐらい人が来てとか、企業立地については、何社が立地したことにより、雇用者数がどれぐらいふえたのかということを目指していくものができたらいいと思います。

そうしたものは、そこまで個別なものは市のほうでは持っていなかったもので、今後、進行計画の中でつくっていければと思っております。

○委員 そのときに、今みたいな案を出していただけるとありがたいのです。全くゼロからみんなでやろうというよりは、今こういうふうに考えていますよと、案のものと案じゃないものとか、全くノーアイデアなものもあります。ここは何していいかわからないのです、相談したいのですというのがわかるような形にさせていただけるといいと思います。

○事務局 その案については、中身がまだ産業振興計画はどういったものをつくっていかうというのは白紙の状態なので、ここから後ほど骨子ということで、こういうところはどうかということはお話ししていく予定ではあるのですけれども、そうした

ことをより集めていって、こうしたことを求めていきたいというものを今後、つくって示していければと思います。

○委員 私は、この会議に携わって何年かたつのですが、総合計画との関連性の中で今回、話を進めて、総合計画から今、説明ありましたように、前期と後期に分かれていて、私も最近になってやっといろいろなことがわかってきたということで。例えば前期5年計画をしたのは、もう4年も5年も前なわけだから、どうしてまたこの三つの戦略にこだわらないといけないのか。市長もかわったのだし、いろいろ新しい目で考え直すということがいけない。ただ、そうはいっても、10年間の計画、法的な行政を動かしていくという意味では、非常に重い決定を10年計画をつくった。そういう意味で、特段特別な大きな外的環境、内的環境がなければ、この辺も個々に見直していくのが今はいいんじゃないかということで、後期の見直しを行っています。

ただ、先ほど説明もありました中で、ページ数でいうと、もう一度確認したいと思うのですが、今回我々が今やろうかとしているのは、55ページの分野別個別計画の体系とこのを見ていただくと、後ろに米印があるのが幾つかあるのです。その時点では、個別の計画はなかったのだよということではありますが、そこで米印のある中で、この白井市の産業計画と、もう一つ、何かないのだよね。決まっていないから。なにかそうだそうです。そういう意味からすると、この総合計画をつくった時点で産業計画をつくることにはなっていたのです。ただ、私もかかわっておきながら、そういう位置づけだということも余りよく理解していなかった。そういうことでは、今、この総合計画の中の位置づけとして、産業振興計画を早急にこの1年数カ月の中でつくろうというのが、今回の目的です。

そういう中で、この戦略1、2、3というのは既に決まっておりますけれども、戦略1の中にも幾つか分かれております。その分かれていての中で、総合的に書いてあります。今、委員の言われるように、商工業の活性化というあれで、何をもって活性化されたかというような言葉ももちろん出てくるだろうと思います。数値目標みたいなものもその中には幾つか出てきております。その辺のところをもう少し出してもらって、特にこの産業振興ネットワークとして取り上げなくてはいけない項目をここに持ち出して、特にその辺を重点的に議論し、専門的に議論し、計画の柱となるものを確認していって、どうしたらいいのだろうかと。そういう面で後期の総合計画とやりとりしながら、総合計画というのを後期の分を見直すようなことがあってもいいのかなと思います。

私の意見としては、そのような。以上です。

○鈴木委員長 ご意見ありがとうございます。

そのほか何かありますでしょうか。

では、時間もありますので、議題1の1点目はこれぐらいにいたします。さらに不明点・疑問がありましたら、直接事務局のほうに質問、ご確認いただければと思います。

それでは、次の議題となります。議題 2、産業振興計画（仮称）策定について。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 引き続き議題 2、産業振興計画策定についてということでご説明してまいります。

今回のテーマのメインになってまいりますけれども、今後計画の策定に向けて、準備段階として、今回、三つの項目でスタートしていきたいと考えています。

一つがスケジュール、もう一つが他市の事例研究、白井市産業振興計画の骨子・方向性についてということで、今回これをクリアして、次の会議に進めていきたいと思っております。

産業振興計画は、当初 3 年ということで予定しておりましたけれども、前回の委員さんからの意見も踏まえて、何とか 2 年間で策定していくことでスケジュールを考えてみました。2 年といっても実質 2 年を切っていて、あと 1 年半しかない中で、かなりタイトな中で進めていくしかないと思っております。

まず一つ、スケジュールについてということで、別添 2 を見ていただければと思います。

別添 2 のスケジュールで、今回の会議は、主に他市の策定状況を学んでイメージをつけて、あくまでもイメージ、骨子案を今回、提示させてもらって、次の会議で骨子を決めていければと思っております。他市の事例だけで、これだけで会議を何回か割いて、いろいろ研究、勉強をしていきたいところですが、実は時間がないというところはありまして、今回、4 市、5 市の事例を挙げさせてもらって、他市ではこんなことをつくっていますということを研究していけたらと思っております。

急遽、次の会議では、ある程度統計的なものとかを出せればと思っております、これまで 6 年間産業振興ネットワーク会議をやってきて、農業、商業、工業とあらかた現状であったり、問題であったり、議論をしてきました。そうしたことのデータをフィードバックしてと思っていたのですが、やはり直近の新しいデータも必要だなということがありまして、急遽、商工会の方にご協力いただいて、商工業者向けのアンケートを実施することとしました。今、商工会の会員さん向けに 550 社、かなり厳しい回収率かもしれませんが、少しでもデータがとれればと思っております。

それと、工業者向けアンケートということで、工業団地協議会さんの協力を得て、市のほうは後期基本計画の策定に向けて、資料にするために工業系のアンケートも実施しています。こうしたアンケートデータを企画政策課のほうから供与してもらいながら、今後データとして生かしていければと思っております。

2 月には、アンケートにまとめた結果が多分出てくるかと思います。そのアンケートの結果を公表させてもらって、より鮮明になるであろう課題であるとか、問題点、農業、商業、工業、こういうことが必要になることをお話いただければ、議論いただければ

と思っております。そこであらかじめ産業振興計画の骨子・体系というものを決められればと思っております。

あわせて市のほうでは、総合計画の策定も進んでまいりますので、それとの整合性を図りながら骨子を決めていければと思っております。

農業者向けのアンケートもとれば一番いいのですが、今、台風の災害とかがありまして、被害状況やそっちのアンケートが中心になっておりまして、とれたら、冬ぐらいに農業者向けのアンケートもとっていきたいとは思っていますけれども、こちらのほうの進捗については、もしかしたら厳しいかもしれませんので、そうした場合には、これまでのデータであるとか、農業センサスとかを活用していきたいと思っております。

年明けまして、6月には、この辺で大方の2月で決めた骨子・体系を肉づけをして、中身をつっ込んで、何を目的にするのか、先程もありましたとおり、そうしたことを突っ込んで、6割ぐらいのものでお示ししていったら、皆さんに議論いただいてブラッシュアップしていければと思っております。

来年度の10月ぐらいには、8割、9割ぐらいの策定をして、これをまた皆さんでご意見、議論いただきながらブラッシュアップして、令和3年の2月には、あらかじめ完成していきたいと思っております。市のほうでは、たたき台案の作成であったりとか、アンケートの回収、集計・分析、パブコメの実施などを同時並行していきたいと思っております。

令和元年2月、最悪、間に合わなければ6月には策定して公表していければと思っております。

スケジュールについては、こうしたことで目指していければというところです。

次に、他市町村の事例研究ということで、近隣市の策定状況なのですけれども、見てのとおり、千葉市がアクションプラン、船橋市では商工業戦略プラン、松戸市では商工業等振興基本計画、策定しているところ、していないところ、まちまちです。中身については、名称については、産業振興計画だったり、ビジョンだったり、アクションプランだったりさまざまですけれども、どの市町村も大体傾向的には似ているのかなと思います。ここで、個別にはほかの自治体がどのようなスタイルでつくっているのかということを見ていきたいと思います。

まず、別冊資料を送付しました船橋市商工業戦略プランというものをみていただければと思います。

非常に字が細かくて申しわけないのでございますけれども、通常でやると物すごく膨大な量になってしまうので、4分の1に縮小してコピーさせていただいております。少し見にくいところはご了承ください。

例えばこの船橋市のプランですけれども、目次のところ、左下を見ていただくと、序章、1章、2章、3章、4章、5章から成り立っています。例えば序章1ページをござ

んください。

開いてもらって左上です。序章ということで、船橋市商工業戦略プラン策定の趣旨ということで出ています。次に、第1章として、左下の2ページ、本市の商工業を取り巻く現状と課題というところが盛られていて、18ページの第2章は、右上のほうです。商工業戦略プランの基本方針ということが組まれていて、4章の39ページ、50ページのほうで第5章、商工業戦略プランの推進に向けて。こうしたことが盛り込まれています。

次に、柏市の柏市産業振興戦略ビジョンというものを見ていただければと思います。

こちらのほうも項目が、左下の目次のところを見ていただいて、6項目からなっています。柏市将来人口、現状と課題、柏市の強みを踏まえた将来の展望について、4で各施策の取り組み、5で計画の推進と効果測定について、6、各種計画との連携についてという6からとなりまして。

次に、成田市の商工業振興計画というものを見ていただければと思います。

成田市商工業振興計画には、ページを1枚めくってもらおうと、右上のほうに目次が出ています。目次で、今1章、2章、3章、4章、5章、6章から成り立っていきまして、1章1ページを開いてみてください。

やはり本計画についてという挨拶的なものがここで述べられていて、次、第2章で5ページを見ていただきまして、5ページは成田市の地域特性と商工業の実態ということが書いています。

3章では成田市商工業のポテンシャルと課題、4章では商工業振興の基本的な考え方、5章では施策の方向、6章では計画の推進ということで構成されています。

次に、富里市の産業振興ビジョンというものを見ていただければと思います。

これが昨年、平成30年にできた一番新しい計画になります。ページをめくってもらいますと、左上に目次がありまして、産業振興ビジョンの策定に当たって、現状と課題、産業振興の方向性、計画の推進とありまして、まず1ページの右側、産業振興計画の策定に当たってというところが1ページに入っています。

次に、6ページを見ていただきまして、Ⅱで現状と課題ということでデータのようなものが入っております。

次、Ⅲで産業振興の方向性ということで、22ページを見ていただきまして、方向性が示されています。

最後、Ⅳ、計画の推進ということで、29ページ、右上です。計画の推進ということで全体的な体系がという感じになっています。

最後に、本日追加でお配りしました習志野市産業振興計画を見ていただきたいと思います。

これもページを1枚めくってもらおうと目次がありまして、1章、2章、3章、4章からの構成になっています。1章、1ページを見ていただいて、産業振興計画策定に当たっ

て、7ページ、第2章を見ていただきまして、現状と課題というものが盛り込まれています。

3章で21ページ、縦型になって見にくくて申しわけないのですが、習志野市産業振興計画の施策体系一覧ということで、全体像がここで示されています。

最後に第4章で、事業計画ということで25ページを見ていただきまして、事業計画、25ページ以降、個々の計画が盛り込まれたという形になります。

細かいところは、見ていくと時間が切りがないので、後ほどお時間があるとき見ていただければと思います。こうしたことを踏まえておりまして、今後、市の産業振興計画、仮称となっているのは、できれば方向性を示した以上にこういったアクションプランのようにしていければと思っていますけれども、ほかに皆さんで議論いただければと思っています。

下案の作成に向けてということで、今回たたき台をつくってみました。どんな骨組みにしていくのかというなんですけれども。それについては、郵送しました別添3の資料を見ていただければと思います。

これはあくまでもたたき台なので、こんなことでイメージ的にこう詰め込んでいければと思っているもので、いろいろなご意見あろうかと思うので、これについては、後でご意見いただければと思っています。

例えば第1章では、市の概要であったり現状、目的であったり、位置づけ、期間等を入れていきまして、第2章第2項目めとしては、現状の課題は、他市の事例からもデータを取りながら進めていって、課題を浮き彫りにしていくと。アンケートなんかも集計結果をここに当てはめられればと思っています。3章では、例えば方向性だったり、方針だったり、どういうことをやっていくのか、狙いをここに中心に書いていくと思われます。最後、4章では、計画・ビジョンの推進ということで、正直、全てまだ中身が白紙の状態ですけれども、例えば農業、商業、工業それぞれの産業各分野があって、今やっていることであったり、それがどういう効果を生むのかとか、どういうことをやっているのかということ、個々の事業内容をここに置いていければと思っています。

ただ、既に実施している計画もありまして、例えば農業振興地域整備計画であったり、森林整備計画であったり、創造支援事業計画であったりとか、既にある個別計画もあります。そうしたある計画については、他市の傾向なんかを見ると、そのまま位置づけされ当てはめられていますので、同じように落とし込んでいければと思っています。

ただ、これではちょっと足りないよとか、こうした部分が合ったほうがいいのか、それは皆さんに肉付け・ブラッシュアップしてもらって、全く違うもののほうがいいんじゃないか、項目ふやしたほうがいいんじゃないかという意見もあるかと思っています。それについて、正直たたき台案であって、中身白紙ですので、きょうは質問形式というよりは皆さんで意見交換、議論いただいて、こんなものにしていければということをお話し

合っていただいて、それをフィードバックして次の骨子案の作成に向けて進めていければと思っております。

以上、こういうことで進めていければと思っております。以上で説明を終わります。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

ただいま策定にかかわるスケジュールと周辺市の策定の状況なり、冊子の紹介がありました。最後がたたき台ということでしたけれども、産業振興計画の骨子案というものをご説明いただきました。スケジュールは厳しいのですけれども、他市を参考にしつつ、この骨子案を次回に向けてつくっていきたいということでした。

ただいまの説明を受けまして、ご質問、ご意見ありましたら、よろしく願いいたします。

どうぞ。

○委員 ご説明いただいたのですが、ちょっと聞き取れなかったところもあるので、それも含めてご質問したいと思うのですけれども。

まずアンケートなのですが、三つの方向でアンケートをとるのですか。データのアップ・トゥー・デートは商工会の協力を得て行くと。アンケートが、農業関係は災害もあって冬になるかもしれない。あと二つぐらいのアンケート先があったように、僕はメモリ切れなかったのですが、そこを教えてください。

○鈴木委員長 お願いします。

○事務局 ご質問ですけれども、アンケートについては、今二つやっています。一つは商工業の活性化に向けたアンケート。

○鈴木委員長 誰に対して。

○事務局 これは商工会員の550社です。商工会員550社というのは、物販系の方、設備会社もあれば、工業系の方もさまざまで、結構時間も予算もない中で、商工会の協力を得られることができたので、市内の商工業事業者550社に向けてアンケートを。

○委員 商工会の協力というのは、データのアップ・トゥー・デートではなくてアンケートのことだったのですね。

○事務局 はい。アンケートです。

○委員 もう一つ。

○事務局 もう一つは、工業団地の実態調査ということで、これは企画政策課のほうでやっているアンケートにはなるのですけれども、工業団地協議会さんの協力を得て、工業団地協議会の事業所約250社あるのですけれども、そちらに対して、景気情報だったり、市に何をしてほしい施策は何ですかとか、そういったことを聞いている工業社向けのアンケート、この二つを今実施しています。

農業者向きのアンケートについては、先ほども説明したとおり、できればやっていきたいと思っています。ただ、やるのは冬にずれ込んでしまいそうな状況です。

○委員 わかりました。

それともう一点、アンケートのことを聞き落としたので、改めて質問させてもらったのですが、実はスケジュールなのですが、これは本当にできるかなというのが。すごくタイト過ぎるんじゃないかなと。例えばパブコメは、ほとんどでき上がらないとパブコメかけられないはずですから、そうすると、1年間でほぼ正式な案に近い計画（仮称）の検証なんて書いてありますけれども、年次的にこれが例えば議会筋の人とかいるのに、この紙がネットワーク会議で図られましたよと出ちゃうと、首絞めませんかというのがすごく心配です。パブコメの前段階までまとまれば、前回の会議でなるべくやりましょいうよというところの意義は達するので、もう少しアローアンスを持たないと、本当にできない。途中で瓦解しちゃったら、事務局は本当に破綻しちゃうだろうし、我々もネットワーク委員会として、そんなに無理を議論しているつもりは私はないのです。皆さんがどうかわかりませんけれども。

ですので、スケジュールは、こうした紙にしたときに、もう少しアローアンスを持ったほうが絶対にいいと思います。再検討していただきたいと思います。

それから、もう一点、各市の状況のやつをいただいたのですが、これは生の産業振興計画をこうやって見せられても、ハズキルーペがないと見られないような。これは事務局で要点をまとめないとだめです。例えばどういう項目でできているのだ、各市がこういう項目をしているので、我が市はこうしたいというふうにならないといけないので、その中で各市の同じことを言っていることもあれば、当たり前のこと、踏襲しているようなスタイルはある以外のことをやっているとか、踏襲しているスタイルはこうなのだから、そういう簡単でいいから分析した一覧表がないと、これを見て、ご一覧いただきたいと言われても無理。多分、事務局も読み切っていないと思うので、そういう整理をするのが一つと。

それから人口規模からいうと、船橋は63万人、柏は43万人、成田は13万人、富里は除きますが、習志野は17万人の規模の町です。我が市は6万人ちょっと。本当にこういう市が、お金も予算も財政力も職員のパワーもあって、つくってきているものを参考にしているのだろうか。富里は5万人だから人口的には合うのだけれども、もうちょっと身の丈にあった6万人ぐらいの町の事例を数少なくてもいいから、きちんと合わせたほうが楽じゃないですか。手づくりでやろうとしているわけだから、コンサルかけるわけじゃないので、財政力が大きくて体制もしっかりした町の計画を勉強するのは構わないのですが、本当に同じものがこの市でできるかということと、そんなものが必要なのかということもあると思うのです。そういうところは、事例の研究のところはお考えいただきたいと思います。

骨子のほうは、まだ先にいっぱいあると思いますので、以上です。

○鈴木委員会 事務局。

○事務局 意見ありがとうございます。スケジュールに関しては、本当に厳しくて、このとおり行くのかということ、我々も正直苦しいというところがあって、これはあくまでもスケジュール案というか、こうしたことで進めていければと思っているところで、今そうしたところで下に、令和3年6月とか、この構成とかスタイル的なものはこの辺までに決めていただければ、その他2年間の議論の性格とか、かなりフィードバックしていけるのかなと思っています。もちろん令和3年2月、6月に目指していききたいのだけれども、それはちょっと無理なので、もしかしたら後ろ倒しになってくるかもしれないということは我々もすごく思っています、次回、間延びしたものでお示ししていきたいと思います。考えてもらってありがたいご意見なので、せっかくなので、皆さんの議論でいいものをつくっていきたいと思っているので、スケジュールについては、もうちょっと延びていくかとは思っています。

それと、他市の状況に関しましては、今回、非常に申しわけなく、やはり時間がない中で、まず近隣市からざっと調べて抽出した形なので、もうちょっと本当は、確かに委員の言うとおりに、似たような自治体をピックアップして参考にしていければと思っていたのですが、そこまで追いつかなくて示せなかったのですけれども、次回、こういったところの取材、さらに広い地域を見て研究していきたいと思っています。

また、そうしたことを受けて、要検討して、こうしたものに近づけていける資料をできれば示していければと思っています。

それと、実は先ほど説明から漏れてしまったのですけれども、今回の振興計画の策定に当たって、委員から協力いただいて、もう一つ資料をつけてあります。これは別紙のA3の縦型で、白井市産業振興事業の整理ということで、案で策定の協力をいただいています。それに関して、先ほど言われました着地点がどこなのかということで、ゴールが近づいたものにはなっているかなと思いますので、こうしたことを活用し、また皆さんの知恵を借りながら、市になじむ、見合うものをつくっていけたらと思っています。

○委員 説明簡単にしちゃいます。

私が前回の資料で、全く何をやっているのかわからないのです。ばらばら、ばらばらあって。それを機能的に整理したらどうなるかなと思って、1行目からいうと、経営支援セミナーを行うというのが、必要な活動2の下にあるのだけれども、これを8の4の資料のペーパーにあったものです。

「\*\*\*」と書いてあるのが、ほか全部そうなのですが、市からいただいた今やっている事業の紙に載っているやつのコピー、タイトルだけ写したというのが記載です。必要なセミナーを行うが黄土色になっていて、ちょっと赤いその下に設備投資を促す（生産性向上特措法による）というやつは、産業振興条例ができる前後の話で、基本的には、この黄土色と赤いやつは、現在市がやられている施策です。それがどういう目的、どう

いう効果を狙っているのだというのは、左のほうにどんどん上がっていくというふうになっていまして、黄色は私が勝手につけた整理です。

真ん中の具体的な活動の真ん中辺に、起業時の負担を軽減するというのが白く抜けているのですが、これは総合計画のさっきの若い人どうのこうのというやつに載っているから、そのまま市の計画には整理にはないのだけれども、引っ張ってきています。

下のほうの緑のどうのこうのという総合計画のやつに項目にあったものをちょこっと引いているということです。

もう1個色があったのですが、正確に思い出せないのですが、あとはもう1個、にぎわい拠点とかいうのがあったので、それがその中に入ってくるか忘れちゃいました。いずれにしても、例えば経営セミナーを行うのは、どういうことを目指してやっているかということ、多様な経営課題を解決するためにやって、その解決するということは、経営者の能力とか意識が上がるということで、それが市内企業の経営が革新され利益が増進するというふうに整理ができるんじゃないのという、僕の整理も含めたたたき台です。

先程おっしゃっているのは、多分こういうことで、おのおのの事業がどういう目標でやっていて、どこのポイントで、例えば具体的な活動目標の経営者の能力を上げるというデータがとれないなら、一つ左側の重要な行動指針のほうのところで、売上がどのくらいトータル上がっているのだとか、そういうのを既存のセンサスのデータから拾って評価とするというような考え方で整理できますよというのが、この紙です。

大きくまとめてみると、市内企業の利益を上げるということと、商業販売を上げるということと、農業所得を向上させるということの三つが産業面の柱で、もう一つが雇用が出ていたので、これが整理をどうしたらいいかなと思って、最終的には、市民がおのおのの役割を果たすということにしてみたのですが、これは皆さん、市の方がたたき台を整理して、おのおのの市の事業、星が三つあるやつは、その中の幾つも機能があるのですが、その中の一番大事そうなやつのところにはひもづけをしていますので、ダブルでかかったり、あちこちにかかったりすることもあるし、ちょっと知識が足りないで、特に工業団地系の話とか雇用の話とか、まして農業の話もこれでいいのかというのはあるので、皆様、後で見て、文句があったら、とりあえず事務局のほうに言っていただいて。再整理をされると、少し頭の整理ができるんじゃないかということをつくってみました。以上です。

○鈴木委員長　ありがとうございます。

先ほど事務局のほうからのこれを参考にしたいという話もありましたので、引き続き検討いただければと思います。

そのほかいかがでしょうか。

○委員　今、宮地委員から言っていたいたものは、結構私が思っていたことなのだと思いますが、今、ご回答の中でスケジュールがおくれるかもしれないなという話があった

のですけれども、それがいいやら悪いやらがよくわからなくて。どこまでやればいいのかというのは、多分その後何か依存関係がある、ほかの計画書とか施策とか、あと年度末とか、そういうのもあると思うのですけれども、そういうのがあると、実際にどこまでに何をやらなければいけないというマストの部分というのがあると思うのですけれども、そこは多分、動いたらいけないんじゃないかと思います。ですから、そこら辺は何かはつきりさせておいてほしい。ここまでやらないとここはだめで、できればここまで行きたいのだけれどもという形で、何がマストなのかというのは明らかにしておいてほしいなと思います。

さっきこの二つやっていたので、スケジュールの話と事例の話なのですけれども、私もこの事例は、とっても困りましたというのがあって。送られてきて、何をすればいいのかさっぱりわからなかったのです。

例えば今回だったら、骨子案をつくるので、章立てみたいなのを事前に見ておいてくださいねと書いてあれば、この分厚いのを見た途端に、力尽きてしまうんだったのですけれども、これの何を見ればいいのかだろうと思ったのです。事前に配るときにも、そういったところを明確にして、ここの中では、今度骨子をつくりたいので、その章立てみたいなものを見ておいてくださいねというのは入れてほしいなと思います。

あと、今、委員からも出ていたのですけれども、事例がいっぱいある中で、なぜ事務局がこの事例を選んだのかがよくわからなかったのです。今あるだけで、調べただけで近隣で12あるという中で、五つぐらいピックアップしてきているのですけれども、事務局の中で、なぜこの五つをピックアップして私たちに見せたかったのかという気持ちが伝わらなかったのです。何でこの事例なのだということろが。

だから、さっき委員がおっしゃられたように、同じようなところというのもあると思うし、逆に違うところもあると思うのです。だけど、違うところと白井市との違うところ、同じようなところというのを明確にして、それで違うところではこういうところを参考にできないかということで、事務局としては今回、この事例をお示ししているのだという話とかが、そのポイントをまとめる中に入れていただければいいと思うのですけれども。そういうのがあると、とてもわかりやすくなるんじゃないかなと思っていて。これを見せられても、多分本当にもう何をどうしていいのか、ただ項目を並べて、項目の多数決していくだけだったら、それってみんなに検討していただく必要は多分なくて。船橋では、なぜこれ商業と工業だけしかないのか。それは商工計画だからだ。別に農業はあるのかとかないのかとか。うちは三つやろうとしているじゃないですか、商業も農業も含めて。そういうところも違いはあると思うのですけれども、そういうところをもう少しまとめていただけると、時間がない中でみんなでやっていきたいなというところなので、そこら辺申しわけないのですけれども、大変だと思うのですけれども、事前準備していただけると助かると思います。

○鈴木委員長 事務局、お願いします。

○事務局 ありがとうございます。今おっしゃられることがもっともな部分であるとすぐ自覚しています。

今回、4市を選んで資料をお送りしたものについても、本当は一言、お読みくださいと書いておけばよかったというのは痛感しています。

なぜこの4市かというのに関しては、本当はもうちょっと時間があれば、さらに地域を広げて、白井市では5万、6万人都市として、例えば埼玉県とか茨城県とかまで広げて入れられて示せばよかったのですが、申しわけありませんが、そこまで時間がなくて、まず近隣市をピックアップして、より近いところ、船橋、柏、比較的習志野で、あと一つだけ、直近で策定されている富里というところでピックアップしたというものに過ぎなかったのも、それ以上のこともなく、本当は6万人規模のものであるべきだと思います。商業、工業、農業、各分野あって、大きな自治体でもなくかといって何もないわけでもなく、ある程度のことは決まっている地域だと思っていますので、そうしたところをもうちょっと勉強し、研究し、かつまとめて今後、示していきたいと思っています。

なおかつ、あるかないかはわかりませんが、ないならないなりに、今度白井市の農業、商業、工業の規模に合うものを皆さんのご意見いただきながらつくっていただきたいと思います。

○鈴木委員長 恐らく、きょうは骨子案をつくりたいということを伺ってしまして、ほかの市の骨子を見ますと、章だけはほぼ同じなのですが、例えば数値目標を書くのかとか、K P Iをつくるのかどうか。つくられているのは、柏市と船橋市さんの2者なのです。さらに、K P Iはないのですが、例えば習志野市さんは誰がやるのかと、主体がしっかり書かれているという特徴があります。成田、富里は、K P Iも細かなどういうふうにか動かすかではなくて、ビジョンだけを示しているというような特徴に分けられるのかなと思っておりまして。

先ほど事務局のほうからは、ビジョンを示したいということなので、あとはスケジュールですとかマンパワーの中で、本当にK P I、数値目標つくれるのかとか、あるいはもっとそれぞれの事業について深掘りをして書けるのかという話がありますので、その辺、ビジョンで行くのか、もっといろいろ検討して、時間のスケジュール、期間もありますけれども、その辺もきょうの方向性あるいは骨子、そんなところを議論できればと思っています。

○委員 産業振興ネットワークということで取り組んでいる中で、総合計画の一分野として捉えているわけですので、できるだけ数値目標を多くの数字を挙げる必要はないけれども、こういう重点的な項目については設けるような方向で進めていきたい、あるいはいけないかなと私は思います。今、委員長が言われたように、私も見てみると、船橋

市の戦略目標、柏市の目標値、そういうものは示されているわけですね。我々のところでも、単にこういうふうであつたらいいね、先ほど来話が出ている産業の産業振興あるいは地域の活性化、それだけでは何を具体的に取り上げていくか、なかなか明確にし得ないのであろうと思って。多くを問わないですけれども、少なくとも市場を連携した形でも示すべきではないかなと私は思っています。以上です。

○鈴木委員長 そのほかいかがでしょうか。

○委員 農業のほうに関連したことなのですけれども、自分が考えている農業で白井市で一番問題になっているのが、農家の人口、担い手不足と耕作されていない農地の処理だと思うのです。習志野さんのほうも見ると、一番の問題が耕作放棄地で、富里さんと、それに対して農商工の連携ということで、それを補おうとしています。

それからあと、柏さんの場合は、隣のページにたまたま書いてあつたのかもしれないけれども、耕作放棄地に関しては。今自分は、委員のつくってくれたものと、これを見て説明しているのですけれども、特にすごく戦略的でとてもいいと思うのですけれども、マイナス面である耕作放棄地は、農家が農家を守るじゃなくて、商業、工業のほうの力もそろそろ借りたほうがいいかなと思っているような状態なので、そういったところも少しこの計画に強めて入れていただければと思います。以上です。

○鈴木委員長 事務局。

○事務局 今の委員のご意見なのですけれども、確かに農業の担い手不足であったり、耕作放棄地や未利用地とかの問題にもなってくるのですけれども、担い手不足なんかは、商工業事業者もそうですし、大きな今、社会課題になっていることかと思います。そうしたことは、確かに重要課題かなと思っていますので、産業振興計画の中には必要なテーマだとは思っております。

その部分を先ほど農商工で皆さんからお話があつたのですけれども、市も異業種分野間の連携ということはすごく重く見ていて、既に今の5次総合計画の中にも位置づけがありますので、こうしたことも盛り込んで、地域経済が循環、活性化していけるものをつくっていければと思っております。

○鈴木委員長 そのほか、ご意見ございますでしょうか。

○委員 さっき、ほかの市の事例をもう少し地域を広げてということをおっしゃっていたのですけれども、今とりあえず千葉県のものを出していただいているじゃないですか。先ほど埼玉とか言われていたので、関東を中心に検討されるということですか。例えば関西だとか西のほうの同じような地域の事例だったりとか、そこまで手を広げるのが大変なのかもしれないのですけれども、人口の兼ね合いとかも、できれば関東のこの近辺だけのものではなくて、何かほかの地域のものも参考にもしできたら、多分成功している市もあるのかなという私の素人意見ですけれども。なので、つながりがあるところからいただくのが早いのだろうとは予想はつくのですけれども、もしあれだったら、よそ

のもっと西の地域だとか九州だとか、違う地域のものももしあれば、参考にできるようなものがあれば、お願いできたらと思いました。

○鈴木委員長 事務局、お願いします。

○事務局 今、委員が言われましたとおり、近隣だけではなく、関東だけではなく、関西ほかの地域という話もありましたけれども、まさに本当はそういったことまで広めて研究したいと思ったのですが、今回時間がなくて千葉県内だけになってしまったのですけれども、関東だけに限らず、マンパワー的なものとか時間的なものがあるのですけれども、可能な限り広い地域で他県の事例とか、よりいいものを策定しているところを見つけていけたらと思っています。

○委員 私なんかは、鎌ヶ谷と印西市とここを三つ比べて見て、どういう違いがあるのかなということでもいいのかなと思っていたのですが、何のために調べるかということで、こういう産業計画あるいは市でビジョンを策定し、それを推進し、成功事例を探せよという意味だったら、意味があるのだろうなと思います。だから、日本中探してうまくいっている、こういうふうに審議会をつくって、こういうふうにやって、計画を立てて、それが実行されて、こんなによくなっているのだよと。そういうものが日本の中で、あそこの市は有名だよというようなものがあるなら、それはそれでぜひ見てみたいなという気はいたします。ただ、そうでなければ、地域間との競争という意味では、かえって隣接する地域の中で、どういうふうにそれぞれ思い悩みながら産業振興を進めているのかなということと比較してみることも必要じゃないかなと私はと思っています。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

○委員 今おっしゃった話は、成功事例って、先生あるのですか。

○鈴木委員長 今おっしゃったのは、多分経産省のベストプラクティス100とか、農水省ベストプラクティス100というのがあるって、そこはなぜそうやってどういうふうに成功させていったのかというのが、もしかすると、この振興ビジョンを見ればわかるかなというくらいで。

○委員 一応ピックアップしようと思ったら、そういうベストプラクティスというやつから、農業なら農業、工業なら工業、ベッドタウンならベッドタウン、そういうことで選べそう。

○鈴木委員長 そうなのがあるというだけ。多分、今回は骨子をつくるために用意されたと思っています。中身がそれぞれどういうものであるかというよりは、どういう骨子になっていて、構造が書いてあるのかどうかとかということで出されたと思いますので、もしやられるのであれば、恐らくベストプラクティスから見た振興計画はどうなったのかなという部分的なもの。あと、委員が言われたように、周辺市との、それも見てみないとわからないのですけれども、参考になるかと。

○委員 選ぶときの指針として、そういうのがある。

○鈴木委員長 はい。

そのほかいかがでしょうか。

○委員 このスケジュールのところで、今、商工会と工業団地、これはアンケートの内容等は、ホームページか何かで見られる。工業団地は載せていたような気がする。

○事務局 アンケートについて、商工業の活性化に向けたアンケートについては、ホームページで公表しているので見られます。ただ、工業団地の実態調査については、個別に工業団地協議会に委託をお願いしている関係で、公表はしていないのですけれども、後でどういったものかということをお示しすることはできます。

○委員 これはいつごろ区切りで進めているのですか。

○事務局 たしか6月ぐらいに、工業団地協議会さんと企画政策課で話をして。

○委員 終わりましたよね。

○事務局 多分、期限がちょうどここで8月、9月ぐらいに終わって、今、第一の集計かなと思います。

○委員 そうすると、今は見通しとしては、いつごろこのアンケートの集計というか、内容のまとめはするのですか。商工会はこうですという。

○事務局 アンケートの集計ができそうなのが、恐らく2月ぐらいかなと思っています。これは商工業の活性化に向けたアンケート、商工会さんと協力して回っているほうは、期限を11月下旬に定めているので次に示せると思うのですけれども、工業団地の実態調査については総合計画の関係でやっているの、間に合えばというところです。

○鈴木委員長 しかも、集計は事務局でされるのですよね。

○事務局 商工業の活性化に向けた商工会員さん向けは、事務局でやります。

○鈴木委員長 入力とかも。

○事務局 はい、やります。

○鈴木委員長 お疲れさまです。

○委員 商工会のほうは会報とか、それにお願い記事と、あと実際のものを出して、今、回収中です。

○事務局 回収したものを市でいただいて、それを全部集計してデータにしていきたいと思っています。何とか2月までに頑張りたいと思います。

○委員 アンケートも、どんな内容で質問されているか全くわかっていないので、まとめるときに、誰に対してどんな内容で、どういう反応があって、整理するとこういう方向なのだというのがまとめなので、特にアンケートで何を聞いているかは全く知らない我々にとっては、一体どういうものが帰ってくるのだらうかと。それが計画にどういう意味で反映してくるのかというのが、関連ひもづけていただければと思いますので、その点、留意してまとめていただければ。

○事務局 今回、アンケートも添付できればよかったのですが、次回となると、次回はそのアンケートの内容をフィードバックさせてもらえればと思っています。

○委員 いいです。もう既に進んでいるので、出てきたものの整理のときに振興計画なり、この市民ネットワークにかかわるところはこういうポイントですよというのをフラットに、ダットとデータを出すのではなくて、そういう観点で整理いただけると、我々としては意見が言いやすいというか、見やすい。

○事務局 またこれは委員の力を借りながら、まとめていきたいと思います。

○鈴木委員長 そのほか、いかがでしょうか。

○委員 このスケジュールの中身を見ますと、ほかの委員からもありましたとおり、非常にタイトなスケジュールですし、あとは骨子の中を見ても、現状と課題ということでいろいろな統計データですとか、具体的な今後の方向性、施策等、いろいろ中身的にはボリュームも非常に多いと思うのですが。

我々、金融機関の立場から申しますと、例えばある程度のマンパワーも必要な中で、予算とかの問題とかもあると思うのですが、例えば当行のほうでは、企業様向けに事業計画策定ですとか、あとは現状で企業さんの経営課題とか、それに対する計画とか解決とか、その辺をアドバイザー業務という形でお客様にサービスとして提供させていただいているところがあるのですが。

例えば予算の問題とかもあるのですが、外部のコンサルを入れて、こちらの計画について一緒にやっていくとか、そういった可能性とか、そういった部分はいかなのかなと思ひまして。

うちのほうも本部に地方創生部という部署がありまして、経済活性化の連携協定も地元4行で結ばせていただいておりますし、その辺、何かこちらの計画をつくるに当たってお手伝いできることが、金融機関としてもしあれば、当行本部も活用させていただく中でやっていければと考えておりますが、いかがでしょうか。

○鈴木委員長 事務局。

○事務局 今、いろいろな委員からすごく心強い意見をいただいたのですが、できれば本当は、特に銀行さんのデータとかを使って、より現状とかをみて策定していければ、すごくいいものができるのかなと思うところではあるのですが、期間・予算が厳しいというところもありまして、コストがかけられないというところがあって、予算がかからない程度にデータとか協力いただけることとかがあれば、連携してやっていきたいと思っています。

○鈴木委員長 他にありますか。

○委員 ここで事業として、水害の対策として今、金山落としというのを広める中で、それで平塚という地区も少しかかるのです。そのことを利用して今、農地の再編とかをやりようとしている計画を進めようとアンケートをとっているところです。

○鈴木委員長 それも使えるかもしれないと。ありがとうございます。

○委員 私は、商工会事務局のほうなのですけれども、こちらのほう、よくまとまって。いろいろな事業をやっている中で、うちのほうは市役所さん、特に産業振興課さんとは常に連携をとって、今、後で出てくるプレミアム商品券のところも実際の事業の実行部隊ですよ、そういう中でやらせていただいているという形になるので、とりあえずプラン云々というところまでの大きなものというよりは、ある程度決められたものもこなしていくのが精一杯な状況ですので、現状といたしましては。協力してやっていくというスタンスでいます。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

○委員 基本的なことで本当に大変申しわけないですけれども、一つは第1回目の会議に、私たしか中座しちゃってよく聞けないで、なかなか意見らしい意見も言えなかったのですけれども、きょうの内容、テーマで1、2、3、4とあって、第6次計画案についてと。これ一通り、次第としてはもちろんこのとおりなのですけれども、限られた時間の会議の中で、きょうはこういうことを決めたいということを最初に言ってもらって、せっかく事務局の方が長々と説明してもらうのだけれども、説明の時間とか報告の時間が長過ぎて、せっかくみんながいるのに会議になっていないんじゃないかというのは、大変申しわけないことを、自分の言っていないことであれなのだけれども、きょうはこういうことを決めたいので、結論のほうを求めて、それに対してわからないのだったら、どういうことを事務局に聞くとか、そういうふうな形で進めたほうがもう少し会議が皆さんの意見が出やすいんじゃないかと。勉強も私してこないで、こんなことを言うのも本当に申しわけないのだけれども、そんなふうに感じました。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

○事務局 委員が言われましたとおり、今回の説明が長くなってしまって申しわけなかったのですけれども、ただ、こういう方向でこういうものをつくっていきたい、こういうことをしていきたいということで必要な説明をさせていただいたところではあるのですけれども。きょうについては、もともと委員長からもお話あったとおり、まず骨格骨子を決めていかないことには、なかなか肉づけとか中身ということの話にも行かないと思うので、今回はまず骨格骨子案を示させてもらったところなので、きょうの意見からたくさん宿題もいただきましたし、踏まえて次回の会議では、この骨格についてを皆さんと一緒に決めていければと思っております。

○鈴木委員長 それでは、議題の2も時間が過ぎてしまいましたので、ここで一旦締め切らせていただきます。また、ご意見ありましたら、事務局のほうに個別にお願いできればと思います。

それでは、議題3に移りたいと思います。休憩と思いましたが、あと少しで終わるかもしれないので、議題3のプレミアム付商品券事業についてという議題に移らせ

ていただきたいと思います。

事務局から説明をお願いします。

○事務局 それでは、議題3、プレミアム付商品券事業についてということで説明させていただきます。

プレミアム付商品券事業概要ということで、実施主体、市とプレミアム付商品券事業実行委員会ということで、商工会さんの中で実行委員会を立ち上げていただいて、商品券販売以降は、市のほうは商工会さんへの補助事業により実施していただいているという現状になっています。

商品券名はいいですね。販売金額が、全国一律なのですけれども1冊4,000円で、5,000円分の商品券を対象者1人につき5冊まで購入可能ということで、2万円分で2万5,000円分の商品券を販売しているところです。

発行冊数は4万5,000冊、対象者は市内で9,000人掛ける5冊で4万5,000冊となっています。

発行金額は、そこにまた5,000円を掛けて2億2,500万円ということで、これが域内の経済効果額となっています。

対象者9,000人の内訳なのですけれども、非課税者の方が約7,000人、小さい乳幼児のいる子育て世帯の世帯主が約2,000人となっております。

商品券は1枚500円券を1冊10枚入っているものになっており、利用期間は10月1日から2月29日。販売期間は1月31日までで行っています。

販売場所が市内の郵便局、タイヨー白井店、桜台センターのほうで、こちらは私たちと商工会の方で販売しています。

利用店舗数が、9月30日現在で104店舗となっています。こちらはなかなかお店も集まらなかったのも、商工会さんと一緒に、最後は申請書を持ってゲリラ的に直接数十店舗近く回ってかき集めたという現状になっています。

どのような運営方式かといいますと、市で関係各課と連携して実施と書いてあるのですけれども、今回のプレミアム付商品券は、引換券というものを先ほどの郵便局とかに持っていけないと買うことができないので、まず引換券を発行することを市で行っています。ここに書いてあるように、課税課で非課税者への商品券購入の申請書を送付、社会福祉課で申請書の受付を行って購入引換券の送付。これは何で社会福祉課で行っているかというと、以前あった増税時に臨時福祉給付金というものを行っていたので、社会福祉課でそのノウハウがあるということで行っています。子育て世帯については、子ども医療費助成や児童手当の関係でのノウハウがあるので、子育て世帯の対象者については子育て支援課で行っています。10月1日から購入可能ということで、その商品券の販売・利用についての以降については、産業振興課、あとは商工会さんの実行委員会のほうで対応となっています。

では、産業振興課で何を行ってきたかといいますと、商工会さんと協力して商品券取扱店の募集、これは先ほどご説明したとおりです。販売店の選定・依頼、郵便局のほうで全国的に手を挙げていただいたので、郵便局と、ただ土日の販売などはできないだろうということで、市内のスーパーなどさまざまなところを検討、交渉させていただいた結果、タイヨーさんができると言っていたので、タイヨーさんをお願いしております。桜台地区については、タイヨーさんも遠くて郵便局もないということで、市役所の職員、あと商工会さんのほうで月に2回ほど販売を行っています。既に10月は、10月6日、10月24日と行っています。

換金先の場所の選定・協議ということで、換金先は商工会さんで、毎週月水金で行っていただいています。

振り込み方法などについては、市内の金融機関4行でのネットバンキングを開設するなど行っています。

その後、取扱店一覧・ポスター・商品券の作成ということで、これら今、前に出ているのが、これはうちでつくったものではなくて、全国一律で行っているものになっています。

またこちらは商工会さんがつくっていただいた取扱店のポスターになっており、今後、こういったポスターが張ってある店舗で商品券を使えるというふうになっています。商品券の実物がこんなようになっています。

商品券の販売店及び取扱店への説明ということで、販売店について、市内の郵便局、タイヨーさんなどでそれぞれ訪問して説明を行い、取扱店については、また商工会さんと一緒に市役所で9月11日に説明会を行いました。

現状、10月16日現在の数字になっているのですけれども、商品券の購入引換券送付状況がこのような数字になっています。非課税者分、約対象者約7,000人ということなのですけれども、このような状態になっています。周知などは行っているところではあるのですけれども、プレミアム商品券を買わないと判断される方がいらっしゃるのことは当然のことなので、今後は伸びていくと思いますが、現状は2,021人という状態になっています。

簡単ではありますが、プレミアム商品券については、説明は以上とさせていただきます。

○鈴木委員長 ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見ありましたら。

はい。

○委員 このプレミアム付商品券について、議題として取り上げて、何を決議する、何を議論するのでしょうか。

○鈴木委員長 事務局。

○事務局 今、委員からお話ありましたけれども、本当は今回ブランディングのことを

やる予定ではあったのですけれども、今年度大きな事業としてプレミアム付商品券事業があったということで、これについて、特に1回でお話はしていませんでしたし、あとはテレビCMなんかでも話題になっていることもあるので、これは産業振興上大きな事業として皆さんに把握しておいていただいて、ご報告という形で議題とさせていただいたところです。

○委員 報告事項ということ。

○事務局 はい。済みません、意見とかそういうものをもらうとかではなくて、実際進めてやっているのです、本当は1回のときにこれが説明できればよかったのですけれども、なかなかそこまでそのときには時間がありませんでしたので、おくれらせながらにはなりますけれども、今年度こうした事業をやっていますというのを報告事項になります。

○委員 何か思うように行っていないから、何かもっと協力をして、市に何か市として、あるいは我々委員として、アイデアが要るよとかそういう側面というのはあるのでしょうか。

○事務局 特に今のところ、問題はなく、11月1日から商品券の利用と販売の開始であったのですけれども、当初はなかなか先ほど綿崎のほうからも話があったように、お店が集まらなくて、夏ごろ市内全体、商工会さんと市とで協力いただいてお店を回って、何とか100店舗近く協力店は得られたのですけれども。

ただ、国の要請で行っている業務になっていまして、対象者が約9,000人いるという中で、先ほどの商品券の購入引換券の送付状況が3,600人、商品券の最大発行数が4万5,000冊だったのですけれども、それに対して、直近で10月中旬の段階では、商品券の販売状況が5,989冊ということで、まだまだ利用者が少ないのかな、周知が足りないのかなというところで、もし子育て世帯の方や非課税者でまだ申請していないという方がいれば声かけしていただいて、こういうお得な商品券あるよということでお話しいただければ助かる場所ではあります。

○委員 わかりました。ただし、非課税者がどなたかがわからない。そういう場合はなかなか声かけするにも。

○事務局 やりにくい場所ではあります。

○鈴木委員長 そのほか、いかがでしょうか。

はい。

○委員 その報告事項であれば、報告事項に合った内容だけ話してもらえばいいと思うのです。例えば今、こっちで見ても、ただ報告をして、こういうことをやっていますという話と、今みたいなどころ、なかなかみんな持っていつてくれないのですという話があるのですというのがあれば、そこだけでいいような気がして。ほかの全部一々細かいところまでやって20分ぐらいかかっているような気がするのですけれども、そこまで、ただこの報告事項だったら時間かける必要はあるのかと思っていて。一番最初に、

ここでは何をしたいのですと最初に言っていただいて、それに合った情報を与えていただければ、もっと時間が節約になると思うので。

10人の人が1時間いたら、コスト的には大変なコストがかかっているのです、もう少し時間に対してのコスト意識とかも持っていていただいて。説明がみんな長いのです、正直に言って。さっき長々とおっしゃっている方もいたから、あれなのでしょうけれども、もっとコスト意識を持って、きちんと何をしてほしいのです、だからこういう情報が必要だと思います。誰に何を伝えるのだというのをきちんと整理した上でやっていただかないと、肝心なところに時間がかけられなくて、余計なところにばかり時間がかかってしまうので、そういうふうな進め方をしてほしいのですけれども。

○鈴木委員長 これは私も今年度からで、このネットワークのこの組織自体がよくわかっていなかった面もあるのです。ことしは計画をつくるという、多分事務局も初めてのネットワーク会議になっているのだと思うのです。その辺これから、これまでもやられていた副委員長とも相談しながら進めていきたいと思いますので、ひとつよろしく願いします。

それでは、これで用意されている議題は終わりましたけれども、その他何かございますでしょうか。

事務局のほうからは何か。

○事務局 その他ですけれども、次回のネットワーク会議なのですけれども、どれぐらい事務局のほうで準備できるかというところはあるのですけれども、2月上旬ごろを目指して皆さんにお集まりいただければと思っています。以上です。

○鈴木委員長 2月中旬。

○事務局 2月上旬です。中旬だと議会が重なってしまうので、上旬でお願いしたいと思います。

○鈴木委員長 はい。

○委員 その上旬とか何とかというのは、日付では出ないのですか。今回だって大分欠席の方がいらっしゃるのですけれども、行き当たりばったりでやっているわけじゃなくて、できたところを出したいのじゃなくて、きちんと年間の計画があってやっていると思うので、この日にやりたいという話をしていただいたほうが、その日だけ必ずあけておけるのです。だって、皆さんお忙しいと思うのです。お忙しい中でやっているのに、上旬と言われて、半月前ぐらいになって急に来ちゃうと、もうそこは入っちゃっているという話とかもあって来られない人も出てきちゃうと思うのです。であれば、きちんと日付でやって、いつやりたいというのを出しておいて、そのペースで何か問題があれば個々で言っていただいて、そこは既にだめですというのがあると思うのです。既にだめじゃなければ、皆さんそこはあけるように努力してくれると思うのです。そういうやり方をしないと、多分よくないと思っています。

また、開催資料とかも日付と曜日が違っていたりしたじゃないですか、今回のもの。どっちなのと。金曜日なのか月曜日なのかわからなくて、何かよくわからないなという。これは開催をお知らせするやつで日程とか場所が違っていたら致命的で、これは請求書を出して請求書の金額が違っていたぐらいの大間違いで、そんな重要なところを間違えるようなやり方というのは大問題だと思っています。それに私、1回目のときは、私の名前も違っていたのです、名簿が。名簿は、名前をちゃんと書くのがメーンの目的なのに、名前が違って、その資料の一番の目的が達成できないような資料というのが多過ぎる気がしているのです。

また、開催案内も開催案内で別に来て、その後、資料も別に来るじゃないですか。何であれ2回に分ける必要があるのですか。通信費の無駄なような気がしていて。最初だけやっていて、あと資料はまだつくっているから出せないような感じなのですけども、そうじゃなくて、きちんと次の開催に向けて計画立てて、準備をして出していただかないと無駄ですよ、2回も出すのは。市役所の方は税金ですから、ぜひできるだけ無駄にしないようにしてほしいと思うのです。

○鈴木委員長 どうぞ。

○事務局 名前を含めて、日程が間違っていたことに関しては、申しわけありませんでしたということで気をつけていきたいと思います。

その上で、日程については、大変申しわけないのですけれども、やはり委員長と副委員長の予定であったり、ほかの議会等々もあつたりとか、なかなかこの日ですというのを決めるにくいところがあつて、大体この時期、この時期というふうに今までもさせていただいているので、なかなか日にちをこの日ですということは確定するというのは難しいということだけのご理解いただければと思います。

ただ、コスト的なものはできるだけ我々ももちろん、今、委員が言われたように、コスト意識は持たなければいけないし、持っているつもりではいるのですけれども、それでもかなり無駄があつたことについては、申しわけなかったと思います。

ただ、資料を2回送るということについても、確かにこれは無駄で、我々の作業も結構、大変時間を要してはいるのですけれども、資料とかそういったものが本当は間に合わせなきゃいけないのですけれども、どうしてもぎりぎりまでかかってしまうということもあつて、本当は最初に示せば、開催通知のときに出せばいいのですけれども、なかなかそこまで間に合っていないくて、間に合わせなきゃいけないのですけれども、そうした努力をしていきたいとは思いますが、なかなかそうした事情で2回になっているところなんです。ただ、改善し、努力していきたいと思っています。以上です。

○鈴木委員長 はい。

○委員 すごく戻ってしまって申しわけないのですけれども、きょうは結局この案で行くんだぞということでいいのですか。次回決定になっちゃっているのですけれども。

○鈴木委員長 本日の意見を踏まえまして、事務局のほうで作成するという。

○委員 次回までに、何かしらまた変わっているということですか。

○鈴木委員長 で、よろしいですね。

○事務局 今、委員の言われましたとおり、今回は一番の狙いは、この骨子案を示させてもらって、こういった方向で行きたい。ほかに何かあれば、これをブラッシュアップして皆さんにご意見をいただいて、肉付けとて次の会議で決めていきたいというのが今回の会議の目的着地点でしたので、これで今回たたき台を出させてもらったところで、今回お話いただいたことをまた資料をつくって、確認してもらいつつ、委員の皆様においては、できる限りきょうの資料を読んでいただいたりとか、例えば他市にこんないい例があって、こうしたほうがいいよというご意見があれば、次の会議のときに意見でいただいて、骨格骨子を確定させていければと思っております。

○委員 そうだとしたら言うておきたいのは、ここには目標だとか指標とかそういう項目がない。その点については反対です。

○鈴木委員長 意見をお願いします。

○委員 今の委員のご質問のとおり、まだこの骨子案というのは、ただイメージを示されただけという認識で、次回議論されると思ったのですが、これで次回もう決めますとって、これをベースにと言われると、いろいろな意見があると思うのですが、議論していませんが。

○事務局 まだ議論になっていないと思います。なので、今回はそこまで至っていないので、次が議論になると思います。むしろ議論していただければと思いますし、いろいろな情報とかご意見いただければ。

○委員 ということですね。これはまだイメージだけだというイメージ。

○事務局 これはあくまでもイメージです。

○委員 たたき台とか、名前をちょっと。骨子案ではない。

○委員 先程委員も反対とおっしゃったのは、そういうことで。

○委員 はい。

○委員 私も、これを議論していないのに、これで。

○委員 そう思いました。何も。

○委員 大筋オーケーですという話は、今は多分抵抗感が皆さんあると思います。

○鈴木委員長 あと、そもそも計画とこの会、今のこの組織の関係がまだしっかりしていなくて、次回までにはそれをしてと思いますけれども。要するに、普通は計画を立てるときに、諮問されて、原案をつくって市に返すというので、こちらがつくったことになるのですけれども、今回の場合は、事務局というか市がつくったものに対して意見を言う、言える会というような。今のところの認識はそこまでなのです。なので、その辺しっかりしていきたいと思えます。

はい、お願いします。

○事務局　今まで議論いただきましてありがとうございます。今まで議論が出ているように、以前のネットワーク会議という会議なのですが、市のほうでいろいろな課題を、例えば農業に対する振興策はとかという課題をその会議の中で、きょうやりましょうという話し合いをしていました。その中で、皆さん異業種の関係の委員さんが集まって、その議題に対して、いろいろな見方の中から意見をいただいてという流れで会議をここ何年かやってきたという事例がございます。

今回、事務局としていろいろと不手際があったことは、今回申しわけなかったということでおわび申し上げます。まだ我々もなれていないところもあって、そのネットワーク会議の中には、市長からの重要課題を審議していただくというような役割もあって、それを今度やっていくというようなところの中で、今までの皆さん、言い方は悪いかもしれないのですが、ざっくばらんに意見を言っていたというような会議進行でもあったのですけれども、今回から産業振興計画を少し審議していただくというようなところがあって、きょう何を作業するのかとか、何を参考にするのか、気持ちが伝わるような資料作成を今後もう少し精査して次回につなげていきたいと考えておりますので、不手際等がありましたが、職員も台風作業とかいろいろあった中で頑張っています。コスト意識がないというのは、確かに低いのではないかとと言われるとつらいところもあるのですけれども、職員もいろいろやるところがある中でやっておりますので、どうかご理解をいただけると。

○鈴木委員長　ちょうど2時間ほど過ぎましたので、これにて第2回産業振興ネットワーク会議を閉会させていただきたいと思います。本日はどうもお疲れさまでした。